

7.20MTG 議事録

1. 今日の流れ

7:00 起床

8:30 朝食

9:00～11:00 部屋の清掃

11:30～12:30 昼食

12:30～13:00 引き継ぎの準備について話し合い

13:00 第2班到着

13:30～15:00 引き継ぎ作業

15:00～15:30 台湾の Child Fund が遠野の拠点を視察

16:00～18:00 買い出し、夕食の準備

19:00～19:30 夕食

20:00～21:00 全体ミーティング

21:00～21:30 スタッフミーティング

21:40～21:50 第1班の見送り

2. 今日の活動

午前中は部屋の清掃、荷造り、引き継ぎの準備。

午後は第1班から第2班への引き継ぎ作業と台湾からの訪問客を受け入れる。

夜のミーティングでは自己紹介とこのボランティアに参加したきっかけを話した。

3. 明日の予定

ベンチ、プランター作り、被災地視察、ポスター、チラシ作り。

7.21MTG 議事録

1. 今日の流れ

6:00 起床

7:00 朝食

① グループ

8:00～12:00 被災地（陸前高田、大船渡、地ノ森仮設住宅）に出発、視察

② グループ

9:00～11:00 仮設住宅マップの作成

13:00～15:30 越喜来にてベンチ作り

16:00～17:30 買い出し、帰宅

19:00 夕食（ハンバーグ）

20:05～21:30 ミーティング

21:30～22:30 スタッフミーティング

2. 新たな活動

子供たちの学習指導、遊び。

学童保育：親が共働きなどの場合に子供が放課後遊んだり、学習したりする場所。

子供が 20～30 人来ている。

こちらからは数名を派遣予定。

プールがあるのでそこも使う。

Child Fund Japan の担当者は松尾さん。

体験として 10 分ほど言われた絵を描いた。1 つ描いて隣の人に紙を回す。

3. 今日の活動

被災地の視察は陸前高田と大船渡。

感想

元々家があったのか分からないほどの更地だった。

道路がほぼ通れるようになってるのを知った。

これからどうやって復興をしていくのかが気になった。

工事意外の人がいなくて、ここに住民などは戻ってくるのだろうか疑問に思った。

その他

被災したとこと同じ場所に家を建てたいと思っている人が多い。Child Fund Japan と酪農学園大学が調べた結果では 70～75%ほどがそう思っている。

浸水危険地域にあたるここでは市は家を建てていいか決めかねている。

市は県の意見を待っていて、県は国の意見を待っている。

この問題をどうするべき？

- 市や自治体レベルにもっと権限を与えてもいいのではないか。
- 自治体レベルなら住民のニーズを反映できる。
- 国がやることでバランスを保てる。
- 被災した地域によってシチュエーションがばらついてるけれども、政府ではうまくその状況を埋めていくのが難しい。
- 政府の隙間を埋める形として民間があるべき。
- 政府に対し対等な力を発揮できる民間があるべき。
- 行政、民間が上から与える形にすると被災した住民の自立につながらないのではないか。
- つまり、政府と民間のどっちが主導を取るとかではなくて、明確な役割分担をすることで両者の得意な方を活かしてやっていくべき。
- 仮設住宅を管理する都市計画を担っている部署の人でも実際にその仮設住宅に踏み入れたことがなかったりする。

明日の予定

チラシ作り、社協でのボランティア（泥だし）、ベンチ作り。

7.22 大船渡ボランティア活動報告

1. 今日の活動

6:00 起床

7:00 朝食

8:10 大船渡へ出発。3グループに分かれる

① グループ

9:30～12:00 越喜来でベンチ作り

12:00～13:00 昼食、休憩

13:00～15:00 チラシ訪問配布、ベンチ作り

② グループ

9:30～12:00 社協でのボランティア(側溝の泥だし)

12:00～13:00 昼食、休憩

13:00～14:30 側溝の泥だし

③ グループ

10:00～12:30 ベンチ作りを知らせるチラシを改善、仮設住宅マップの作成

13:00～15:00 越喜来でマップの作成を継続

全グループ

15:30～17:00 買い出し、帰宅

17:40～18:00 スタッフミーティング

19:00 夕食 (パスタ)

20:10～21:30 全体ミーティング

体験遊び

リーダー探し：一人が外に出ていってる間にリーダーを決めて、その人に従った動きを皆がする。その一人がその中でリーダーを見つけるゲーム。

2. 今日の活動

ベンチ班

午前中に6個、色を塗ったのが2個、午後にチラシ配り。

→訪問してチラシを配った午後2時くらいは半分くらいが不在だった。

→興味がある人となない人で二極化しているように感じた。

→頑張ってくださいと声をかけられて複雑な気持ちになった。

→ベンチは全員に使われるようにするべきなのか、一部の人に使われればいいのか。

→プランター入れにも興味をもった人がいた。

→プランター入れなのか、プランター自体なのか分かってない人がいる。

ベンチ作りの意味

- 全体がベンチを使うというより、つかっている人からコミュニティーが広がっていつて、そのコミュニティーが全体を包み込んでいくのが理想。たとえば、ここの人はあまり出てこないということを把握、認識することが大事。
- 一緒にベンチ作りをすることで、交流のきっかけを生み出せる。
- ベンチ作りと子どもとの遊びをどの程度で交えるべき？
→ベンチ作りを楽しませる程度に遊びを入れて気分転換させる。
→ベンチ作りをしている間の数人が子どもとの遊びをする。

社協ボランティア班

ボラセンから徒歩3分ほどのところで側溝の泥だしをした。

重油などもつまっていて、それを取りだすことは地域住民にとって臭いもとれるし役に立っていると思った。

住民が水道などを貸してくれて、つながりを感じた。

女の子でもできるほどの作業がある。

学生以外の人と触れ合う機会が持てるし、地域住民との関わりをもてとてもよかった。

個人的に来ているカメルーン人が来ていた。

チラシ作り、マップ作成班

元々できていたベンチ作りを知らせるチラシを改善。具体的には日時と場所を確定して書いて、シンプルで分かりやすいようにした。

84枚ほど印刷して、越喜来の各戸にベンチ班が午後に訪問配布。

午前から午後にかけて、仮設住宅マップの詳細な部分のマップを作成。詳しい住所、集会所、談話室の有無を明記。さらに拡大した部分を google マップを利用して作成。

明日の予定

ベンチ作り、地域のお祭り視察。

7.23 大船渡ボランティア活動報告

1. 今日の流れ

5:30 ご飯班起床

7:00 朝食

8:00 越喜来に出発

9:30～12:00 越喜来でベンチ作り

12:00～13:00 昼食、お祭り視察、木材買い出し

13:00～15:30 ベンチ作り

16:00～17:30 買い出し、帰宅

19:00 夕食(オムライス)

20:10～21:10 全体ミーティング

21:20～22:30 スタッフミーティング

2. 今日の活動

仮設住宅の方と一緒にベンチは10個程作成。ほぼ全部にペンキを塗って、ベンチの設置を行った。

昨日のチラシを配った効果もあって、様々な年代の人がベンチの作成に参加。

3. 思ったこと

他のNGO団体が来ていて、隣で図書館を開いていた。そのことがとてもよかったから他団体と連携と取れたらいいと思った。

メインストリートにベンチを置くことで、人が座っていたら、その人が周りを見ることになるからそれが防犯にもつながるしホワイトリスト、ブラックリストを知ることにつながる。

越喜来でのベンチ作りはいつまで続く？

→今ベンチが20ちょっとあるから、あと10～20ほどあればいいと思う。

→今の数で十分だと思う。今日のベンチ作りが一区切り。

子どもたちにまたいつ来るのと聞かれたらどうする？

→そもそも自分たちボランティアはいずれ退く存在なのだから、この質問には良い面と悪い面がある。結局はこのボランティアがなくても子どもが交流していることが理想。

4. スタッフミーティング

KAZUさんが酪農学園大学でのワークショップ（酪農学園大学が石巻と大船渡に派遣していたからそれぞれの班で振り返りを行った）に参加した。

8月13日から酪農学園大学が大船渡に来て、8月15～17日にかけて学童支援を行う予定。対象は小学生。

この件に関して自分たちがするとしたらチラシ配りを行う。

今までの酪農学園大学の活動と青山学院大学の活動写真をいずれ集めてまとめた

い。そうすることで変化を見ることができる。

青学と Child Fund Japan で 7 月 30 日～8 月 12 日まで 2 か所の学童保育で遊びボランティアを行う。

当面の方向性

お祭りに向けて各地でベンチ作り。

8 月 5 日：地ノ森

8 月 6～7 日：未定

8 月 13～14 日：越喜来（未確定）

総合運動公園（日時未確定）

計 5 回のお祭り開催予定。

越喜来はしばらくの間活動が止まるとみられる。

地ノ森は最優先で 7 月 28 日あたりからベンチ作りを始める。

七夕の短冊作りは地ノ森の自治体が主導するけど、自分たちも関わっていく。

5. 明日の予定

午前中は任意で教会、午後は総合運動公園の仮設住宅でベンチ作り。

7.24 大船渡ボランティア活動報告

1. 今日の流れ

7:00 起床

8:00 朝食(ご飯、納豆、味噌汁)

9:10 大船渡教会に出発

① グループ

10:30～12:00 礼拝

② グループ

10:30～12:00 被災地視察

全グループ

12:00～12:40 教会の物資整理

12:40～13:30 昼食

13:30～15:30 総合運動公園でベンチ作り

16:00～17:30 買い出し、帰宅

18:20～19:00 スタッフミーティング

19:00 夕食(ポークシチュー、大根サラダ)

20:10～21:30 全体ミーティング

2. 今日の活動

午前中、礼拝に5人。教会での物資移動を手伝った。

他は被災地の視察に行った。

礼拝にはアメリカ人の夫婦、香港からの宣教師など様々な人が来ていた。

サクソなどの音楽を使っていてびっくりした。

車イスに乗った人が傾聴やドライバーとしてのボランティアをしていた。

午後にベンチ作り

場所は大船渡で最大の総合運動公園仮設住宅(308戸)。

1時間半ほどでベンチ4個、ペイント3個。

出来たものは集会所横に置いてきた。

すぐ近くの場所で他の団体が物資の配給をしていたから、多くの人がベンチ作りに興味を持ってくれた。But これからはどこの場所でやったりするかなど工夫が必要ではないか。

大きいからこそ防犯に対する効果としてベンチ作りは意味があるのではないか。

もっと積極的にこっちから声かけていたら参加してくれるかもしれない。

ベンチ作りをしている意図を分かってくれている現地の方もいた。

煙草を吸うためにベンチが欲しいと言っていた人もいた。

総合運動公園で出来る日数は限られてるから週末に限定してチラシを配るなど集中的にするのいいのではないか。

明日の予定

社協でのボランティア(泥だし)、越喜来、総合運動公園でベンチ作り。

7.25 大船渡ボランティア報告

1. 今日の流れ

6:00 起床

7:00 朝食

8:10 大船渡に向けて出発

① グループ

9:30 社協でボランティア登録

10:00～12:00 大船渡中学校での掃除

12:00～13:00 昼食、休憩

13:00～15:30 チラシ配り、カフェの手伝い

② グループ

10:00～12:00 越喜来でベンチ作り

12:00～13:00 昼食、休憩

13:30～15:30 総合運動公園でベンチ作り

全グループ

15:30～17:00 帰宅、買い出し

18:30～19:00 スタッフミーティング

19:00～19:40 夕食

20:10～21:30 全体ミーティング

2. 今日の活動

ベンチ組

午前は越喜来で残ってたベンチ3個にペンキを塗った。

ベンチをどこにどう置いたかの配置を記録。

お昼御飯はYSセンターで食べた。

午後は3グループ（二人ずつ）に分かれて総合運動公園でベンチ4つ作成。

越喜来、総合運動公園の両方で作ってくれてありがとうと言ってもらえた。

やっぱり休日と比べると平日は人があまり来てくれない。

今日来てくれた年齢層はお年寄りの方がほとんどだった。

社協組

大きく2つの活動をした。

大船渡中学校の掃除。

→避難所としての役目を終えたからその掃除をした。

→避難所の時は450人ほどが来ていた。

→大船渡中学でもベンチを置いてくれたらいいのという声があった。

→大船渡中学ではグラウンドが仮設住宅になってるために、部活の活動が制限されてる。

→体育館もまだ物資や掃除しなければならいものがあるために、体育館としての役目を果たせていない。

→野菜の無料配布を知らせるチラシを配った。

→大船渡中学の100軒ちょっとほどに一軒ずつ訪問してチラシを配布した。

→ある仮設住宅にはちゃんとした下駄箱が置いてあって作り方を教えますという張り紙を貼ってあった。

→ボランティアセンターでカフェのお手伝いをした。

→社協の駐車場でカフェをしていた。

→他のボランティアの人と話ができてとても充実した。

→色々な人と話してみて様々な場所から来ていることが分かった。

→被災した地元の人もボランティアに参加してる。

→ボランティアを支えるボランティアもいた。

MTGでの意見

なんでパチンコが新規にオープンして盛況してるのか。

→今までお金を使えなかったフラストレーションがその娯楽に向かっているのではないか。

→被災者のストレスが溜まって、車の運転まで荒くなっている。

→4カ月間ずっと色々なことに我慢していた被災者のストレスがでてきている。

→イベントごとにはすごくストレスの発散になると思う。

→岩手は避難所で炊き出しがないときがあった時に、家が壊れてない人がご飯を提供していた。

要望

→もっと被災者の話を聞きたい。

→直接仮設住宅の人に声かけをしにいったら、ベンチ作りを知らせる。

明日の予定

総合運動公園でベンチ作り。

7.26 大船渡ボランティア報告

1. 今日の流れ

6:00 起床

7:00 朝食

8:10 大船渡にむけて出発

① グループ

10:00～11:00 総合運動公園で仮設住宅の家を訪問してベンチ作りを知らせる

② グループ

10:00～12:00 総合運動公園でベンチ作り

12:00～13:30 交代で YS にて昼食、休憩

13:30～15:30 ベンチ作り

全グループ

15:30～17:00 帰宅、買い出し

19:00～19:40 夕食

20:10～22:30 全体ミーティング

2. 今日の活動

ベンチ4個と作りかけ1個

社協で頂いたうちわを持って直接訪問し、ベンチ作りをしていることを知らせた

見てくれただけの人を含むと計20人程

ベンチ作りに参加した人は計10人程

→これから関わった人の数を記録していったほうが良い

→総合運動公園の人たちは社交的な人が多かった。

→他の人達ともっと関わりたいように見えた。

→あれだけの規模のところに婦人会を作ったら効果がありそう。

→仮設住宅内のお風呂は狭くて高さがあるのでお年寄りには入りにくい。

→現地の声として家の前に一人用にイスが欲しいという意見があった。

- 総合運動公園のような大きな仮設住宅の場合ベンチは集中してどこかに置くべきか、各棟にまで置くべきか？

→ベンチを各棟の近くに置いてほしいという要望があった。

→わざわざ人の家の前にまで行くのは座りづらい。

→長期的なスパンで見ればベンチを各棟に置くこと自体は可能。

→それぞれのニーズに答えていくと数が足りない。

- 現地のニーズに応えることと、自分たちの目指している状態（コミュニケーションの促進、被災者の自立）との狭間でどう妥協点を見出すか？
- 自分たちがベンチを作っている目的を被災者に理解してつかってもらう必要があるのか？

→理解までして使ってもらえる必要はないと思う。なぜならあくまで自分たちが勝手にこういう目的を設定したのであって、それをこうしてくださいといって説明してまでして使ってもらえるのは違うから。

→向こうのニーズに応えるためにベンチは軽くして、固定していない。

→ベンチが隣の家にだけ置かれていたりする場合、他の人がなんでうちにはないのかと不公平を訴える可能性がある。

● ボランティアする側と受ける側は対等な関係、補えるギブアンドテイクな関係？

明日の予定

掃除、新たな班への引き継ぎ。